

地域医療福祉拠点におけるミクストコミュニティ形成の推進

～みさと団地におけるコミュニティ活動拠点の整備～

～健康寿命サポート住宅と健康増進プログラムの取組み～

UR（独立行政法人都市再生機構）では、「多様な世代が生き生きと暮らし続けられる住まい・まちづくり」を目指し、団地を中心として、住み慣れた地域で最期まで住み続けることができる環境（Aging in Place）を実現するため、地域医療福祉拠点の形成を目指し、以下の取組みを、地方公共団体・自治会等の地域関係者等と連携して総合的に推進しております。

- ① 地域における医療福祉施設等の充実の推進
- ② 高齢者等多様な世代に対応した居住環境の整備推進
- ③ 若者世帯・子育て世帯等とのコミュニティ（ミクストコミュニティ）形成の推進

地域医療福祉拠点は平成 32 年度までに 100 団地程度形成することを目標に、平成 26 年度はみさと団地（埼玉県三郷市）を含む 23 団地で取組みに着手しました。今年度も 20 団地程度で着手する予定です。

〔コミュニティ拠点のイメージパース〕

上記の①③に関連して、みさと団地においては、従来より、三郷市と連携し地域包括支援センターや高齢者等の見守り拠点「ほっとサロン・いきいき」を団地内に設置するなどの取組みを進めているところですが、今般、みさと団地において、ミクストコミュニティ形成推進の取組みモデルとして、URにより多世代交流や相互の支え合いが可能なコミュニティの活動拠点を整備することとしました。



また、②に関連して、高齢者の健康寿命の延伸を支援することを目指した「健康寿命サポート住宅」について、昨年度の意見収集の結果を踏まえ、浴室の暖房設備の設置を試行することとしました。あわせて、今年度はその取組みの一環として「落語と体操」等の健康増進プログラムを松竹芸能株式会社と共同で実施することといたしました。

お問い合わせは下記へお願いします。

本社 ウェルフェア推進事業部 ウェルフェア推進戦略チーム

（電話）045-650-0583

本社 経営企画部 企画チーム（※健康増進プログラム関係問合せ先）

（電話）045-650-0356

本社 広報室 報道担当

（電話）03-5323-2756

1 みさと団地におけるコミュニティ活動拠点の整備の取組み

ミクストコミュニティ形成のモデル的取組みとして、新たなライフスタイルの具現化を目指し、以下の試行的な取組みを開始することとしました。

- ① コミュニティの活動拠点となりうる魅力ある施設を整備（センターモール内2区画）
- ② 新たなコミュニティの形成・担い手の育成等を実施する者を配置（現地に常駐）
- ③ 上記①②により、新規のサークル等、定期的に活動スペースを利用する団体等の立ち上げ等を支援

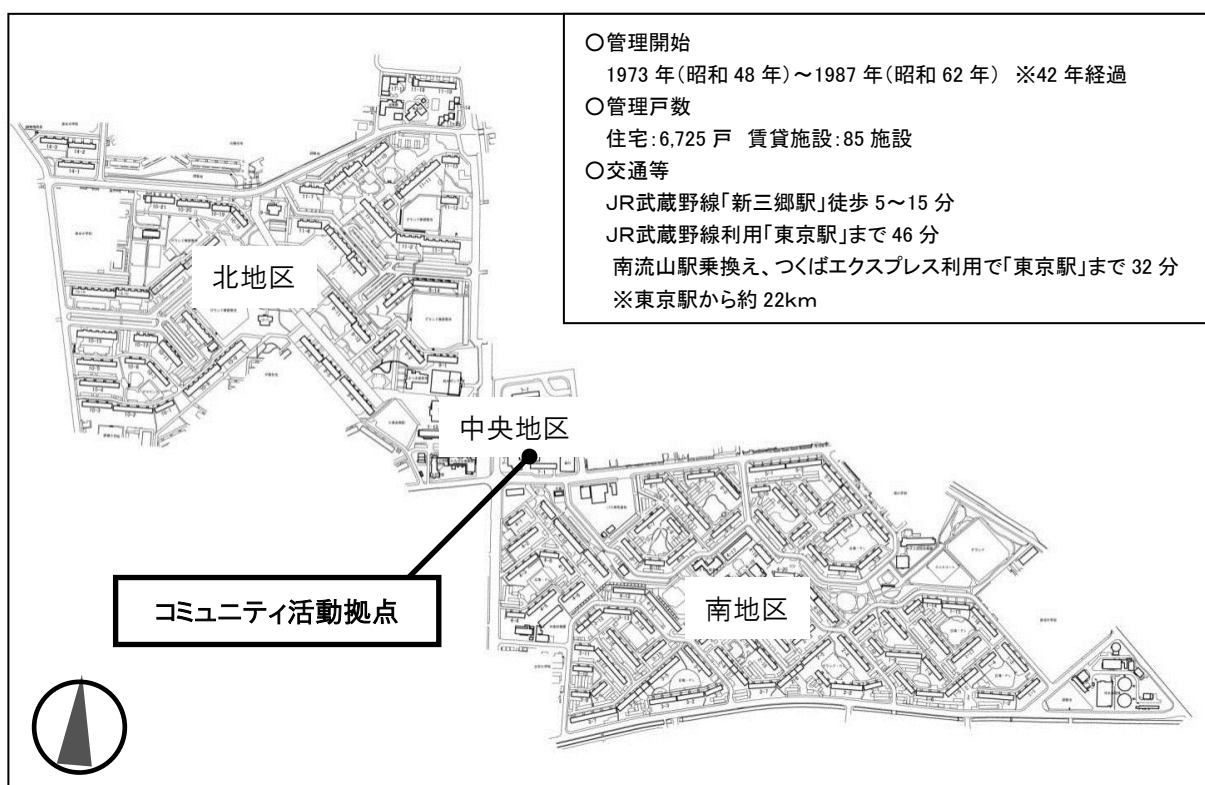
上記①～③により生まれた高齢者を含む新たなコミュニティにより、居住者間での緩やかな繋がり、社会参加の機会、互助など居住者が主体となった団地活性化の取組み等、団地において多様な世代が新たな住まい方を実現できることを目指します。

また、このコミュニティ活動拠点には図書館機能を併設し、そこに子育て支援を目的とした多様な世代が活躍する仕組みを組み入れることで、三郷市が宣言する「日本一の読書のまち三郷」をサポートするとともに、当団地におけるミクストコミュニティ形成の拠点となることを期待しています。

なお、コミュニティ活動拠点施設等は今年の11月に仮オープンし、来年2月にグランドオープンする予定です。

（参考）みさと団地の概要

- ・ 昭和48年に管理開始、高島平（8,300戸）に次ぐ大規模団地
- ・ 平成26年度に地域医療福祉拠点形成に着手



2 「健康寿命サポート住宅※」の取り組み

※ 移動等に伴う転倒の防止等に配慮した住宅改修と併せて、散歩したくなるような屋外空間や豊富な社会参画の機会等により外出したくなる環境を備えたことを示すコンセプト名称です。

健康寿命サポート住宅（以下、「健康住宅」）は、URが平成26年度から試行的に供給を開始しており、これらについて意見収集を実施してきました。この結果から、浴室のヒートショック対策等が課題として明らかになったことを踏まえて、今年度は、浴室の暖房設備の設置等を試行的に追加することとしました。

今年度は全国7団地を対象とし、最大50戸程度の整備を目標に10月30日から順次募集していく予定です。募集概要は以下の通りです。

- ① 募集内覧期間：平成27年10月22日（木）～（みさと団地のみ実施）
- ② 募集開始期間（先着順募集）：平成27年10月30日（金）～
※左近山団地は平成27年11月13日（金）～
高洲第一団地は平成27年12月4日（金）～
- ③ 平成27年度対象7団地：みさと団地（埼玉県三郷市）、豊島五丁目団地（東京都北区）、高洲第一団地（千葉県千葉市美浜区）、左近山団地（神奈川県横浜市旭区）、豊明団地（愛知県豊明市）、中登美第三団地（奈良県奈良市）、日の里団地（福岡県宗像市）

<参考（平成26年度意見収集結果）>

○先行募集2団地の来場者アンケート(52件)<H26.11.14~16>

未実施の改修メニューのうち、寒さや介護対応への要望が比較的高く、中でも浴室の「寒さへの対策」が「必要」の回答が約60%（31/52（15件は未回答））と全ての項目の中で最も高かった。

○インターネットアンケート(356件(50歳以上、男女ほぼ同数、居住形態(集合住宅)))<H27.1.23~31>

自宅の危険箇所として（今後）対応したい（または対応してほしい）箇所は、1位「脱衣室が寒いのでヒーター等を設置する」(31.2%)、2位「浴槽のまたぎ高さを少なくする」(27.5%)、3位「風呂場が寒いのでヒーター等を設置する」(27.0%)、4位「トイレが寒いのでヒーター等を設置する」(26.1%)であった。

また、自宅で危険と認識されている箇所は、1位「風呂場の床・浴槽」(51.4%)、2位「冬場の浴室・浴槽と脱衣所の温度差」(40.7%)、3位「集合住宅等の共用部」(34.8%)、であった。



この吹き出し口から
温風が出ます。

3 健康増進プログラムの取り組み

今年度、健康住宅の取り組みのPRの一環として行う健康増進プログラムは、笑いと運動で健康の増進を図ることを目的とし、松竹芸能株式会社と共同で実施します。詳細は、記者発表資料『昨年に引き続き「UR都市機構×松竹芸能」健康増進プログラム～全国8か所のUR賃貸住宅で実施～』をご参照ください。